

大東文化歴史資料館だより

第12号 2012. 5. 31

百年史編纂に向けた体制作り進む

東洋研究所教授・大東文化歴史資料館運営委員 兵頭 徹

大東文化歴史資料館においては、古川陽二館長、荒井明夫部会長のもと、百年史編纂体制にかかわる人的配置計画につき、運営委員会で幾度となく協議を重ね、学長・理事長へ提案してまいりました。その結果、専任研究員確保の人事が先行し、東洋研究所の全面的な協力によって、(1) 東洋研究所専任研究員の百年史編纂業務への専従と、(2) 百年史編纂業務に従事する特任研究員の採用とが、同時に実現することとなり、2012年4月1日付で、東洋研究所教授兵頭徹、東洋研究所特任講師浅沼薫奈の2名が歴史資料館へ出向する運びとなりました。

これをうけて、本歴史資料館では、(1) 明年(2013年度)に迫った九十周年記念事業への対応として、九十周年ブックレット『大東文化の歩いてきた道』(仮題)の刊行に着手すること、ついで、(2) 学内兼担研究員・学外兼任研究員を募って、「創設時の指導者」研究チームや「建学の精神」研究チームなどの作業部会を整備し、百年史編纂をスムーズに実行していくために、2014年度を目途として『百年史紀要』を創刊すること、さらに、(3)『百年史』の概要について、構成や細目を検討し、「100周年記念事業推進本部」の下に設置されるであろう「百年史編集委員会」に移行できるような準備を進めることなど、百年史編纂にかかわる業務を進行させる必要があります。専任研究員にとって躊躇している余裕はありません。当面する業務を着実に推進していかなければならないと自覚しているところであります。

なお、百年史編纂体制作りは2名の専任研究員確保で終わったわけではありません。さらに、専任事務職員の配置は不可欠であり、アシスタント・スタッフは是非とも必要であります。せめて任期雇用の特別専任事務職員か、あるいは専門嘱託の配置を実現していただきたいと願っております。